

基礎・材料フォーラム実施フローチャート

1) 年次計画の提出

各技術委員会は次年度の基礎・材料フォーラム計画を運営委員会へ提出し承認を得る

以下は主催技術委員会
による実施手順

2) 実施計画書の提出・承認 (別紙例参照)

原則として実施3ヶ月前までに実施計画書を推進委員会幹事へ提出する。 *1

→ 推進委員会幹事は以下の手段により会員への周知をはかる。

- (a) 部門誌への会告の掲載手続き (開催3ヶ月前の月末25日が締めきり)
- (b) 部門ホームページへの会告の掲載手続き (随時可能)
- (c) Email「基礎・材料フォーラムニュース」による会告の配信 (随時可能)

3) 資料の作成発行

資料を製本発行しようとする場合は資料番号の採番を行う。 *2

4) 基礎・材料フォーラムの開催

会場、所要の設備・備品、受付要員などの準備と、座長など所要の担当者を決め、学会の諸技術会合に準じて円滑な運営を図る。
会計については、税法に定める事項を含めて適正に処理する。

5) 実施後の収支報告

終了後、1ヶ月以内に指定の「実施報告フォーマット」に必要事項を記入して、領収証原本などの証憑とともに学会事務局と推進委員会幹事に提出するとともに、剰余金がある場合には事務局宛に振り込む。

→ 推進委員会幹事は、報告書を確認の上直近の運営委員会へ開催報告するとともに、年度末に部門会計役員への清算を担当する。

6) 剰余金の払い戻し

一旦事務局の口座に振り込まれた剰余金は、その20%は部門の収益とし、残りの80%をフォーラムを開催した技術委員会ごとに事務局で預金として管理される。そして、この預金は必要に応じてその額の範囲で引き出すことができる(支払いの請求書を事務局に回して処理してもらうことも可能)。事前に指定の「剰余金払い戻しフォーマット」に必要事項を記入し、推進委員会の幹事の承認を得ること。

→ 推進委員会幹事による可否の判断が難しい場合には、随時メール会議により研究調査運営委員会に諮ることとする。

*1 推進委員会幹事が実施計画を受理した段階で、各技術委員会は開催のための諸活動を開始できるものとする。推進委員会幹事は直近の運営委員会へ報告し承認を受ける

主催名についての注意点:主催名は「電気学会基礎・材料部門〇〇技術委員会」のように「電気学会基礎・材料・共通部門」を忘れずに頭に付けること

* 2 AF-“技術委員会略号”“西暦下二桁-毎年の連番(例;AF-EMC08-111)
複数の資料を製本する場合は、[連番-連番]とする。

実施計画書例

技術委員会名、会合主題、概略の内容・プログラム、開催日時、開催場所、主催・共催など（下記の例を参照してファイルを作成してください）。

→ これらのデータはそのまま部門誌、HP、Email による広報に利用いたします。

その他のデータとして、

- (1) 期待する参加者数などの開催規模、(2) 予定参加費、(3) 予算計画、
- (4) 事務取扱の委託先、(5) 担当委員、(6) その他をお知らせ願います。

会合主題：基礎・材料フォーラム 「高速電力線通信の実用化と EMC 問題」

概要：電力線は、機器に電気エネルギーを供給することが主目的であるが、その同じ電力線に情報を伝送させる電力線通信（PLC: Power Line Communication）システムが存在し、特に、短波帯を利用して最大 200Mbps の高速伝送が可能な高速 PLC が社会的な関心を集めている。短波帯は電離層で反射されて地球の裏側まで伝搬する特殊な周波数帯のため、短波放送、アマチュア無線、各種 SOS 信号等の重要な無線通信システムが多数存在するため、それとの共存が重要である。このため、総務省の研究会や審議会等で共存の条件が検討され、平成 18 年 10 月に高速 PLC の解禁を容認する答申が官報に公示された。これにより、高速 PLC の実用化がスタートし、同年 12 月初旬には高速 PLC モデムの国産 1 号機が販売を開始した。

本フォーラムでは、高速 PLC に対して、システムの構成法、漏洩電波の規格値・抑制方法、国内外の検討状況、各社のサービスイメージ等を総合的に解説している。従って、高速 PLC システムそのものを開発する設計者ばかりでなく、高速 PLC を利用して各種のサービスを展開しようとしている技術者にとっても有益であると確信している。

日時：平成 20 年 3 月 13 日（木） 13 時 00 分～17 時 30 分

会場：武蔵工業大学 3 号館 4 階メモリアルホール A

〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1、TEL: 03-5707-2100 (Ext:3533)、交通アクセス URL: <http://www.musashi-tech.ac.jp/footer/campusmap/index.html#setagaya-map>

プログラム：

1. 13:00-13:05 開会 徳田正満（武蔵工業大学）
 2. 13:05-13:35 高速 PLC の適用形態と東京電力の取り組み 小川 理（東京電力株）
 3. 13:35-14:05 電力線の伝送特性と愛媛大学の取り組み 都築伸二（愛媛大学）
 4. 14:05-14:35 FFT-OFDM 伝送方式と住友電工の取り組み 弘津研一（住友電気工業株）
 5. 14:35-15:05 ウェーブレット変換 OFDM 伝送方式と松下電器の取り組み 宮崎富弥（パナソニックコミュニケーションズ株）
 6. 15:05-15:35 スペクトル拡散伝送方式と関西電力の取り組み 高嶋正也（関西電力株）
休憩
 7. 15:50-16:15 電力線からの漏洩電波発生メカニズムとシミュレーション 徳田正満（武蔵工業大学）
 8. 16:15-16:40 高速 PLC の妨害波に対する規格値と測定方法 牧 昌弘（松下電器産業株）
 9. 16:40-17:05 高速 PLC の実現に向けた国内の取り組み 森田淳士（三菱電機株）
 10. 17:05-17:30 高速 PLC に対する三菱電機の取り組み 森田淳士（三菱電機株）
- 上記の講演後、懇親会（会費 3,000 円程度）を予定しておりますので、奮ってご参加下さい。

テキスト：「高速電力線通信（PLC）システムと EMC」（オーム社）をテキストとして使用いたします。お持ちの方は必ず持参ください。なお、希望者には会場で販売します（定価 3,990 円：消費税込み。ただし、電気学会会員は 10% 割引ですので、会員証をご持参下さい。）。お申し込み時にその旨記載ください。

参加費： 一般 会員 ¥5,000-（非課税） 非会員 ¥7,000-（消費税込）
学生 会員 ¥2,000-（非課税） 非会員 ¥3,000-（消費税込）

申込方法：「基礎・材料フォーラム（高速電力線通信の実用化と EMC 問題）参加申し込み」と題記し、氏名、所属、連絡先（住所、電話番号、電子メールアドレス）、テキストの要・不要の別をご記入の上、電子メール、ファックスまたは郵送にてなるべく 3 月 10 日(月)までに下記へお申し込みください（定員に満たない場合は当日受付も可）。

〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1

武蔵工業大学知識工学部情報ネットワーク工学科 藤田祐治 宛

Fax : 03-5707-2177, e-mail: yfujita@sc.musashi-tech.ac.jp

参加費払込方法：参加費は当日受付にて現金でお支払いください。領収書を発行致します。

協賛：電気学会 C 部門 通信技術委員会、電子情報通信学会通信ソサイエティ 環境電磁工学研究専門委員会、高速電力線通信推進協議会（PLC-J）

共催：電気学会東京支部（予定）

主催：電気学会基礎・材料・共通部門 電磁環境技術委員会（委員長 河崎善一郎）